芭蕉十句

松尾芭蕉

古池や蛙（かはづ）飛び込む水の音

山路来て何やらゆかしすみれ草

行く春や鳥啼き魚の目は泪

夏草や兵どもが夢の跡

閑（しづか）さや岩にしみ入る蝉の声

五月雨をあつめて早し最上川

荒海や佐渡によこたふ天河（あまのがは）

名月や池をめぐりて夜もすがら

秋深き隣は何をする人ぞ

旅に病んで夢は枯野をかけ廻る

あとがき

この本は、一枚の本の「デジタル製本」の見本です。
松尾芭蕉の句から、よく知られた十句を、季節の順に並べました。

『芭蕉十句』

2026年11月15日　第一刷発行

著者　松尾芭蕉

組版：うっかり / デジタル製本：一枚の本

一枚の本「デジタル製本」の見本です。

作品は、著作権の切れた古典です。